

## 第4章 公共交通利用者ニーズの整理

朝霞市民及び公共交通利用者を対象に、市内の公共交通に関する利用状況や満足度等を把握するため、各調査を実施した。

### Ⅰ 調査概要

#### (1) 市民アンケート調査

対象者	・15歳以上の朝霞市在住の5,000人（無作為抽出）
調査目的	・公共交通ネットワークの充実に向け、市民の主要な日常動線に対する公共交通の課題を把握 ・昼間の移動に着目し、課題を把握 ・公共交通の利用促進に向けた取組みを把握 ・市内循環バスの維持に対する意向を把握
調査項目	・属性について（性別、年齢、世帯構成、居住地、クルマの保有状況） ・日常生活の移動について（外出回数、目的別の移動実態） ・鉄道について（駅への行きやすさ、課題等） ・路線バス、市内循環バスについて（バス停までの歩行環境、運行サービスの認知度、利用環境に関する改善策、市内循環バスの今後の維持について等） ・免許の自主返納について（自主返納の意向等）
調査方法	・郵送による配布、回収
調査期間	・令和元(2019)年10月5日(土)から令和元(2019)年11月18日(月)まで
回収数・回収率	・回収数1,835票（回収率36.7%）

#### (2) 鉄道利用者アンケート調査

対象者	・平日の1日間、朝霞駅、朝霞台駅、北朝霞駅の利用者2,000人
調査目的	・鉄道の利用環境の課題を把握（鉄道の運行サービスは対象外）
調査項目	・属性について（性別、年齢、世帯構成、居住地、クルマの保有状況、外出頻度） ・鉄道の利用状況について（「自宅→駅」又は「駅→目的地」までの行きやすさ、鉄道駅間の乗換えについての満足度（朝霞台駅と北朝霞駅間）、鉄道と他の交通手段の連絡の満足度、駅の施設の満足度等）
調査方法	・調査員が改札口から出てきた人にアンケートを配布、郵送で回収
調査期間	・令和元(2019)年11月5日(火)
回収数・回収率	・回収数627票（回収率31.4%）

### (3) 路線バス利用者アンケート調査

対象者	・平日と休日の2日間、朝霞駅、朝霞台駅、北朝霞駅のバス停で待っている乗客約4,000人
調査目的	・利用頻度や利用形態等の利用実態と利用意向をクロス集計し、路線バスの利用促進に効果的な取り組みを把握 ・バス停までの徒歩圏の把握 ・鉄道の課題を把握
調査項目	・属性について（性別、年齢、世帯構成、居住地、クルマの保有状況、外出頻度） ・バスの利用状況について（調査当日に利用したバスの利用実態、バス停までの徒歩圏（市民のみ）、バスの運行サービスの認知度、利用環境に関する改善策） ・鉄道について（鉄道駅までの行きやすさ、バスとの乗り換え、駅舎内の移動等の課題を把握）
調査方法	・調査員がアンケートを配布、郵送で回収
調査期間	・令和元(2019)年11月2日(土)、11月5日(火)
回収数・回収率	・回収数895票（回収率22.4%）

### (4) 市内循環バス利用者アンケート調査

対象者	・平日と休日の2日間 始発から終発を利用する全ての利用者2,500人 ※調査員が利用者へ配布するものの、受け取り拒否があったため、合計配布数は1,032票であった。 内間木線：124票 宮戸線197票 根岸台線：359票 膝折・溝沼線：352票
調査目的	・利用頻度や利用形態等の利用実態と利用意向をクロス集計し、市内循環バスの利用促進に効果的な取り組みを把握 ・バス停までの徒歩圏の把握 ・市の負担に対する今後の対応と運賃の値上げによる影響を把握
調査項目	・属性について（性別、年齢、世帯構成、居住地、クルマの保有状況、外出頻度） ・市内循環バスの利用状況について（調査当日に利用したバスの利用実態、バス停までの徒歩圏（市民のみ）、利用理由） ・評価について（運行ダイヤの正確性、ダイヤの充実、バス停の充実、利用環境） ・今後について（費用負担、運賃）
調査方法	・調査員が車内に乗り込みアンケートを配布、郵送で回収
調査期間	・令和元(2019)年11月2日(土)、11月5日(火)
回収数・回収率	・合計回収数453票（回収率43.9%） 内間木線：48票(38.7%) 宮戸線：95票(48.2%) 根岸台線：153票(42.6%) 膝折・溝沼線：157票(44.6%)

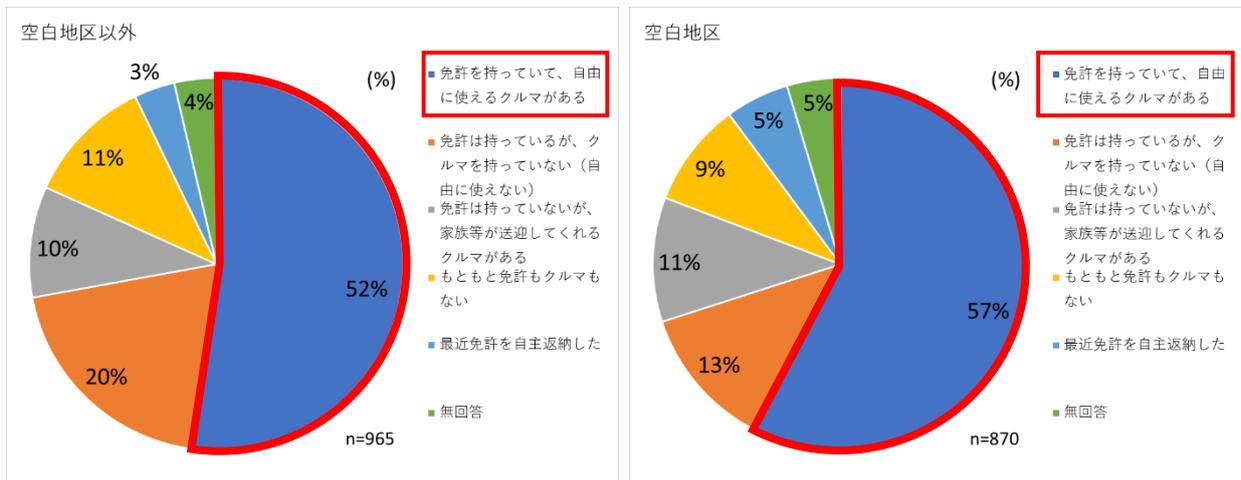
## 2 市民アンケート調査結果

- 公共交通空白地区において、運転免許返納の意向が低く、鉄道駅やバス停までの移動に不便を感じている割合が高い
- 公共交通の利用促進として、運行情報の提供に関する内容が多い

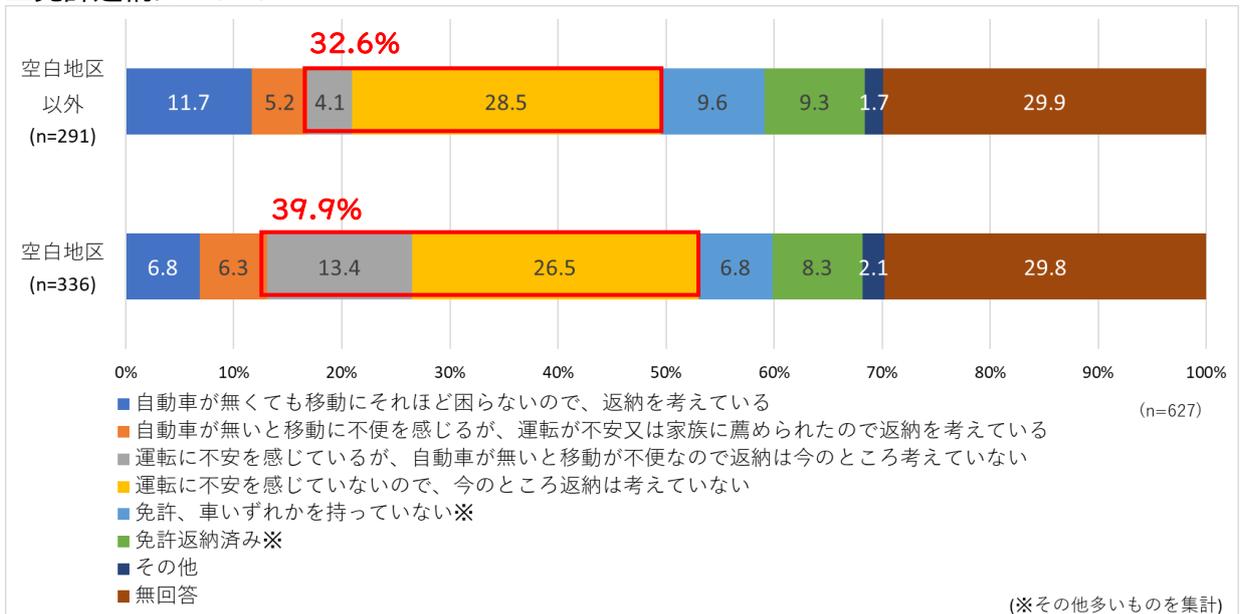
### (1) 自動車運転免許の保有状況、免許返納の意向について

- ・ 「自動車を持っていて、自由に使えるクルマがある」は公共交通空白地区以外で52%、公共交通空白地区で57%と過半数を占めている。
- ・ 65歳以上を対象に、運転免許返納の意向を確認したところ、公共交通空白地区は「免許返納を考えていない」割合が39.9%で、公共交通空白地区以外に比べて高い。
- ・ また、公共交通空白地区は「運転に不安を感じているが、自動車が無いと移動が不便なので返納は今のところ考えていない」割合が13.4%で、公共交通空白地区以外に比べて高い。

#### ■自動車免許、クルマの保有状況について



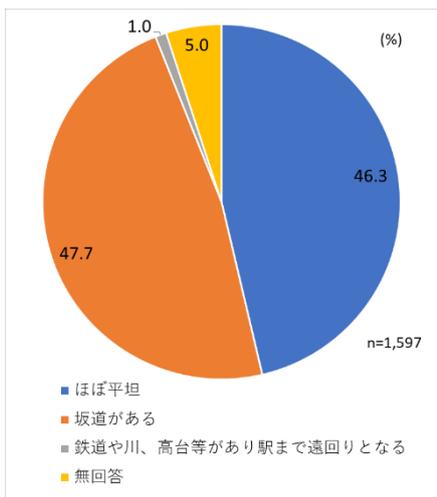
#### ■免許返納について



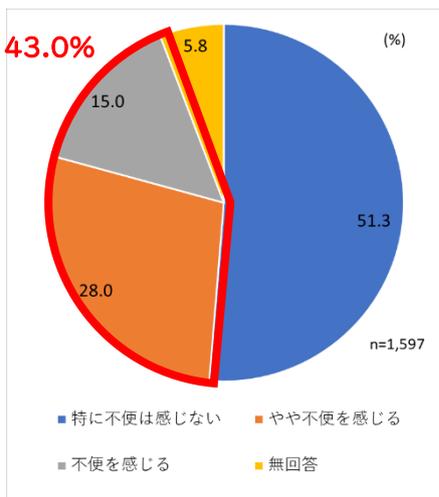
## (2) 鉄道駅、バス停までの行きやすさについて

- ・ 鉄道駅までの道の状況において、坂道があると回答した人は約5割と半数を占めている。
- ・ 鉄道駅まで不便に感じている人は43.0%、バス停まで不便に感じている人は14.9%となっている。
- ・ 鉄道駅及びバス停まで不便に感じている割合が平均以上の地域は、大字上内間木・大字宮戸・岡・根岸台・膝折町・大字溝沼となっており、公共交通空白地区と概ね一致する。

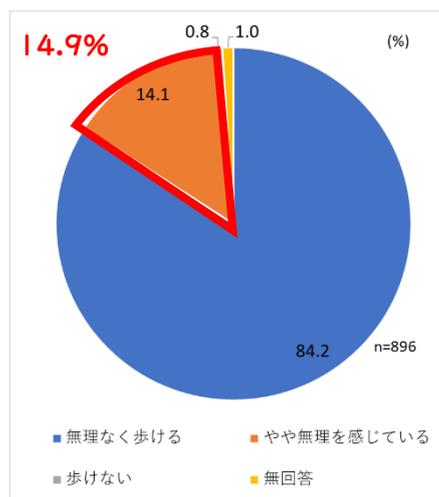
■ 鉄道駅までの道の状況



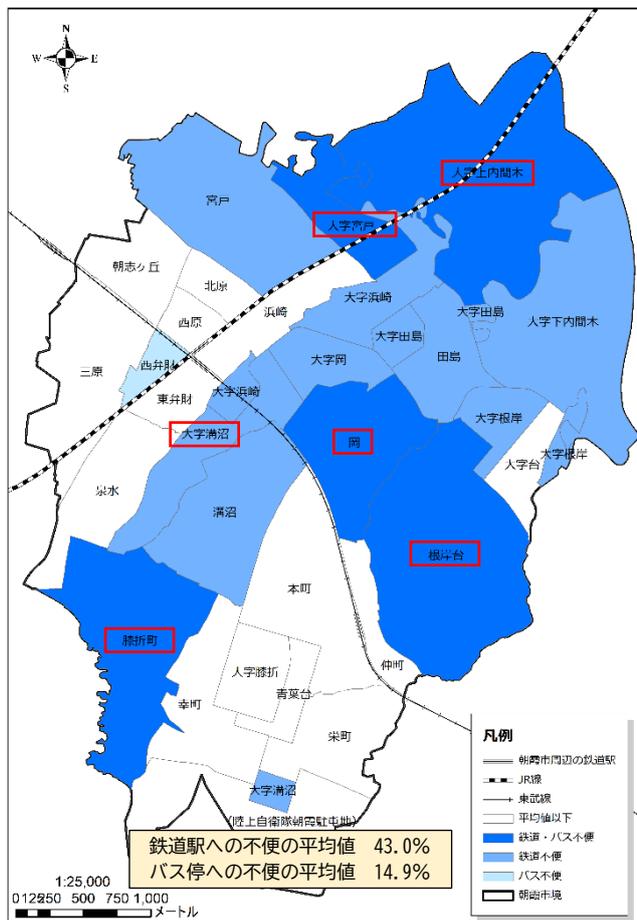
■ 鉄道駅までの不便さ (徒歩以外)



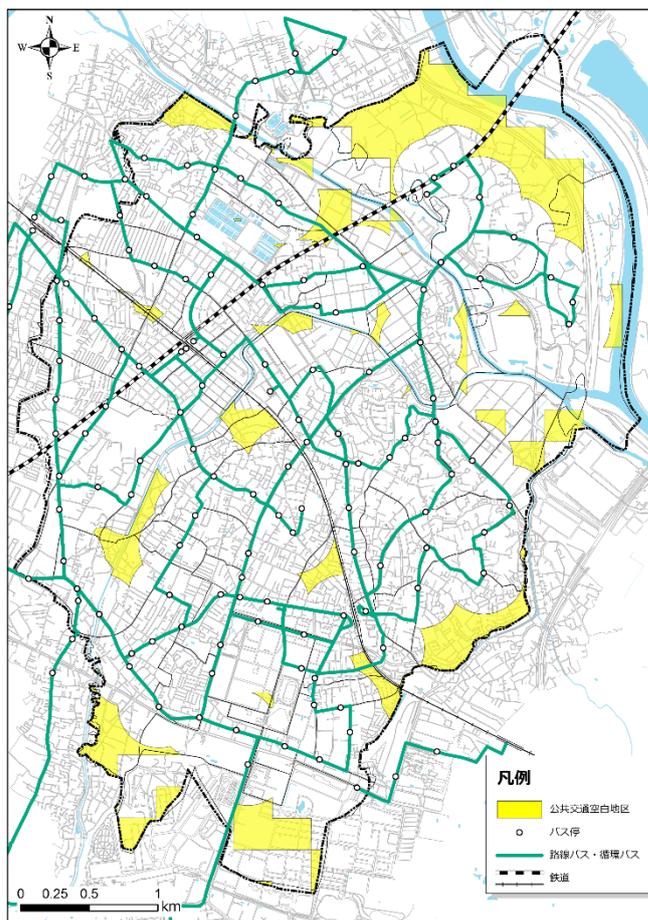
■ バス停までの不便さ



■ 地域別鉄道駅及びバス停までの不便さ (平均値以上)



■ (参考) 公共交通空白地区

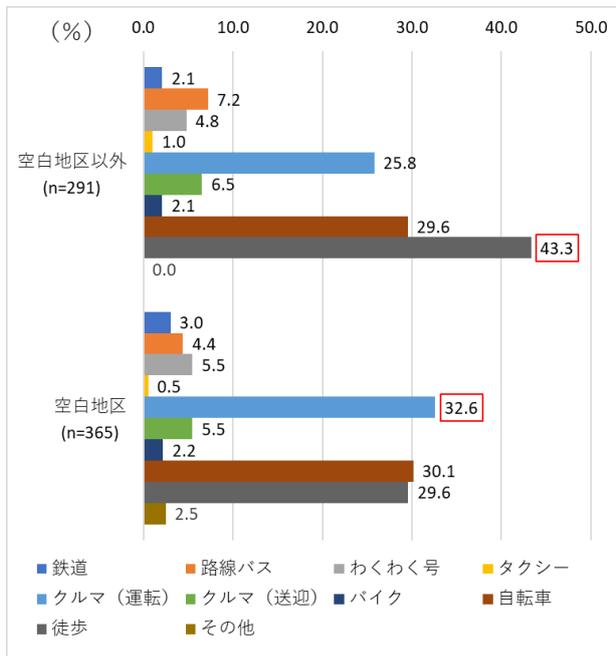


### (3) 公共交通空白地区の移動実態について

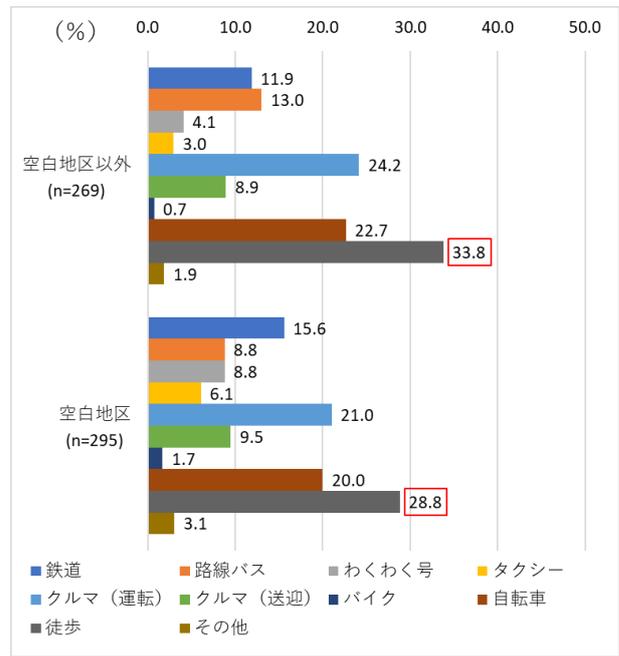
- ・ 高齢者の目的別交通手段を公共交通空白地区と公共交通空白地区以外で比較すると、買物について、公共交通空白地区以外では徒歩の割合が43.3%と最も高い一方で、公共交通空白地区では自動車の割合が32.6%と最も高い。
- ・ 病院について、公共交通空白地区以外では33.8%、公共交通空白地区では28.8%と徒歩の割合が最も高い。
- ・ 習い事・サークル活動等について、公共交通空白地区以外では徒歩の割合が39.2%と最も高い一方で、公共交通空白地区では自動車の割合が33.1%と最も高い。

#### ■外出目的別の日常的に利用する交通手段（複数回答あり）

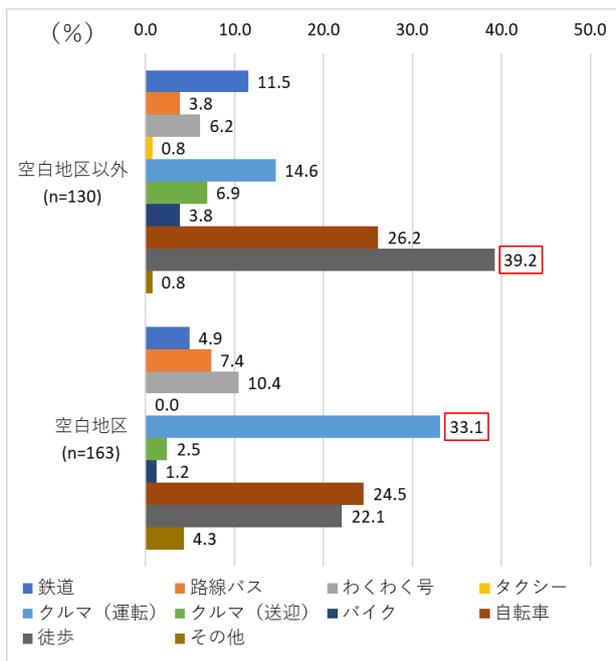
##### 【買物】



##### 【通院】



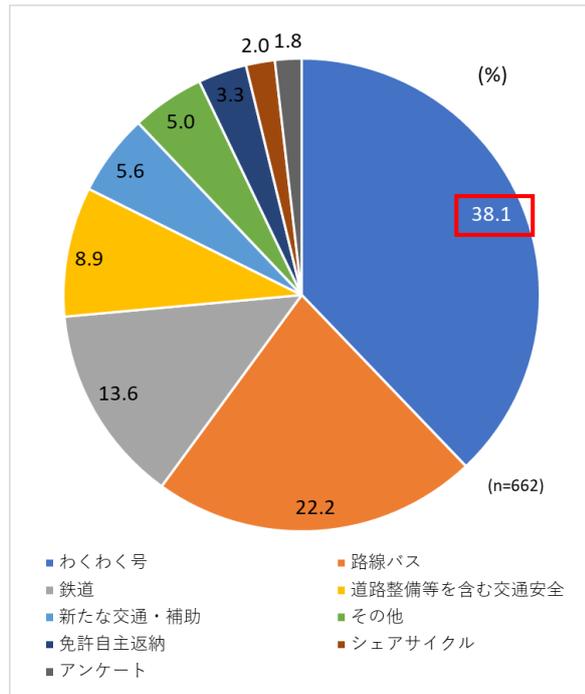
##### 【習い事・サークル活動等】



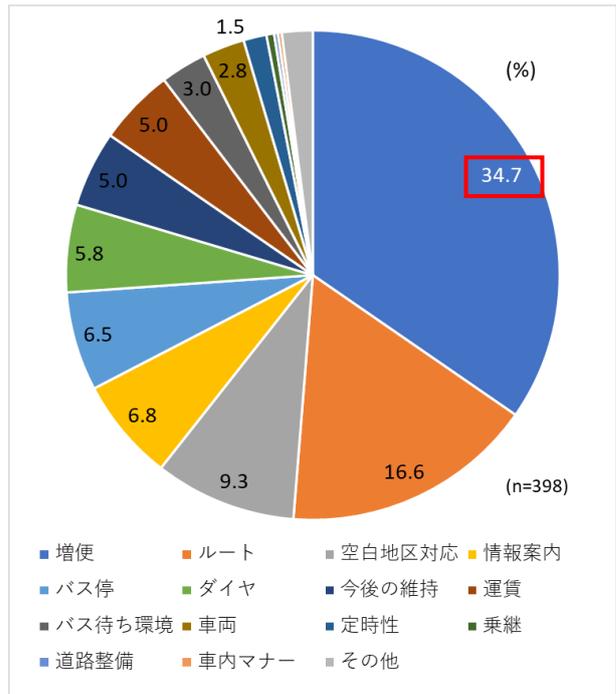
#### (4) 公共交通に関する課題・改善策について

- 公共交通に関する自由回答では、市内循環バスに関することが 38.1%で最も多く、路線バス、鉄道と続く。
- 鉄道に関する内容では、朝霞台駅のエレベーター等の設置が最も多い。
- 路線バス及び市内循環バスに関する内容では、増便が最も多く、次いでルートがあげられている。

■自由回答の分類

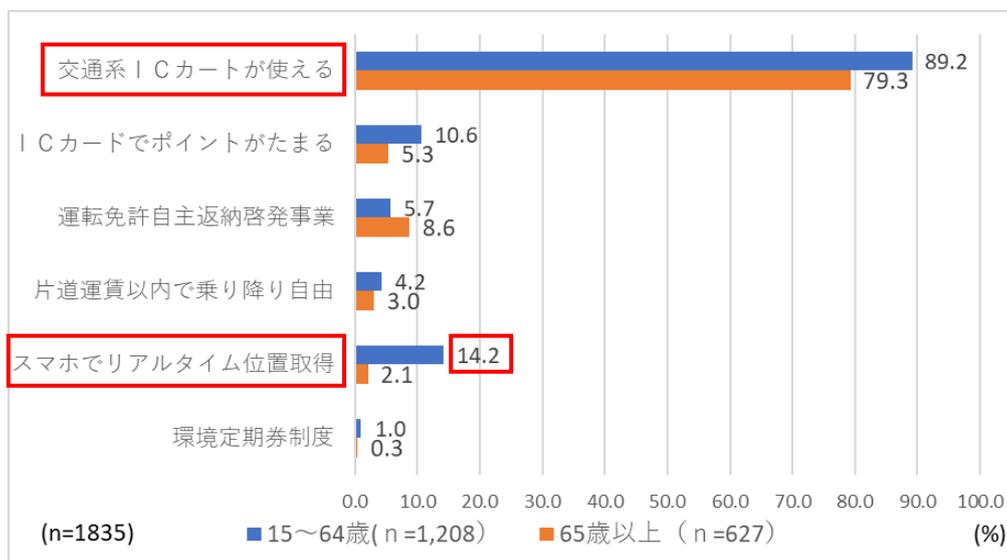


■路線バス、市内循環バスに関する課題



#### (5) バスに関する運行サービスの認知度について

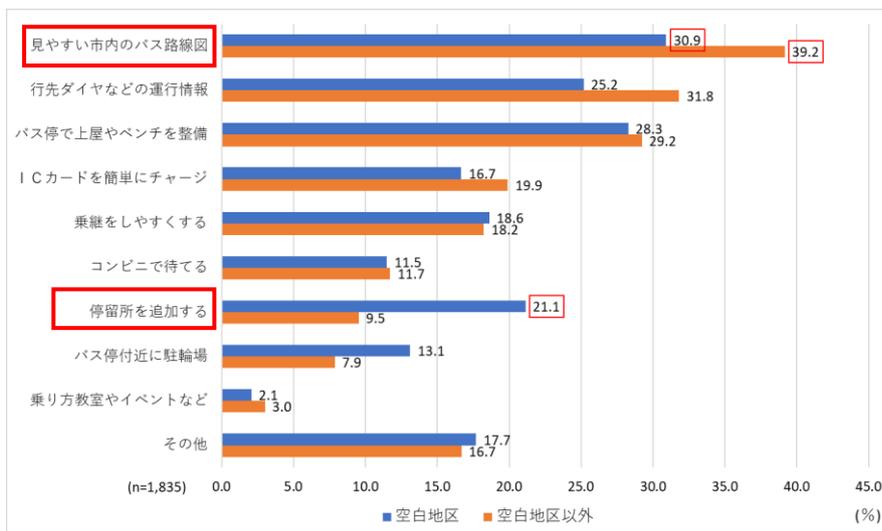
- バスに関する運行サービスについては、「交通系 IC カードが使える」が 8 割以上で高くなっているが、それ以外のサービスについては、認知度が低い。
- 15～64 歳において、「スマホでリアルタイム位置取得」が 14.2%と、65 歳以上と比較して高くなっているが、未だ認知度は低い状況である。



## (6) 施策の方向性について

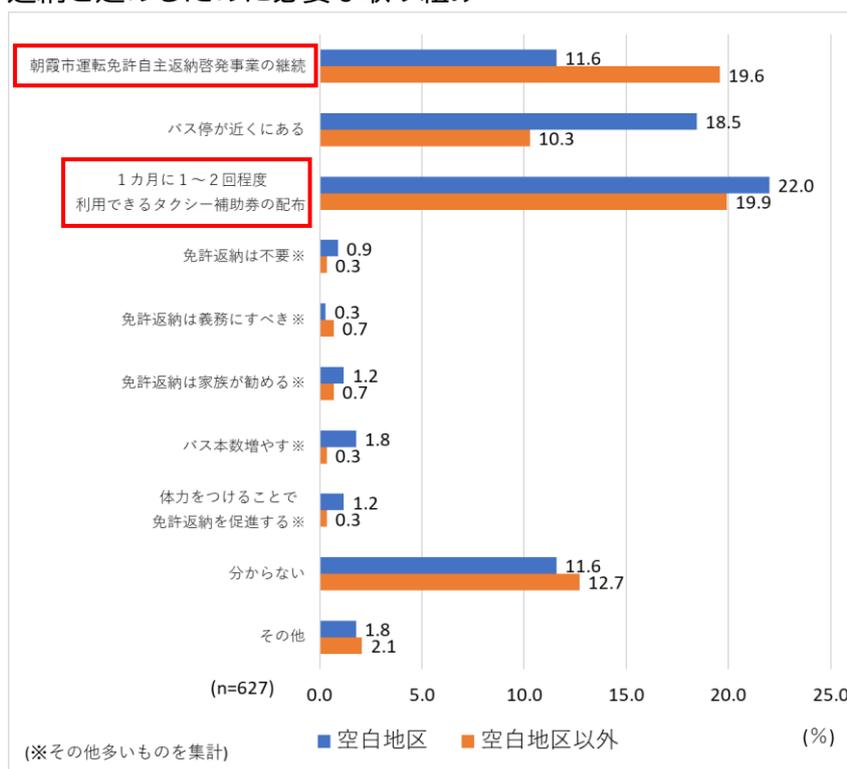
- ・ 利用促進の改善策として、「見やすい市内のバス路線図」や「行き先ダイヤなどの運行情報」など、運行の情報提供に関する内容が多い。
- ・ また、「バス停で上屋やベンチを整備」も多く、バス待ち環境の改善が求められている。
- ・ 公共交通空白地区では、「停留所を追加する」が多く挙げられている。

### ■バスを利用する又は利用回数を増やすために必要な取り組み



- ・ 免許返納の改善策として、「タクシー補助券の配布」の割合が最も高く、公共交通空白地区では「バス停が近くにある」が次に多くなっている。
- ・ また、「朝霞市運転免許自主返納啓発事業の継続」が求められている。

### ■自動車の免許返納を進めるために必要な取り組み



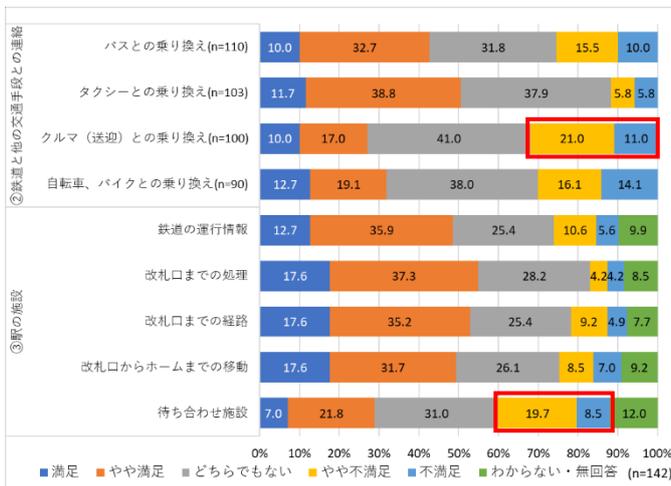
### 3 鉄道利用者に関するアンケート調査結果

- 朝霞台駅及び北朝霞駅において、「乗り換えや待ち合わせ施設、改札口からホームまでの移動」に対する不満の割合が高い
- 朝霞台駅において、「エレベーターが必要」という不満理由が多い

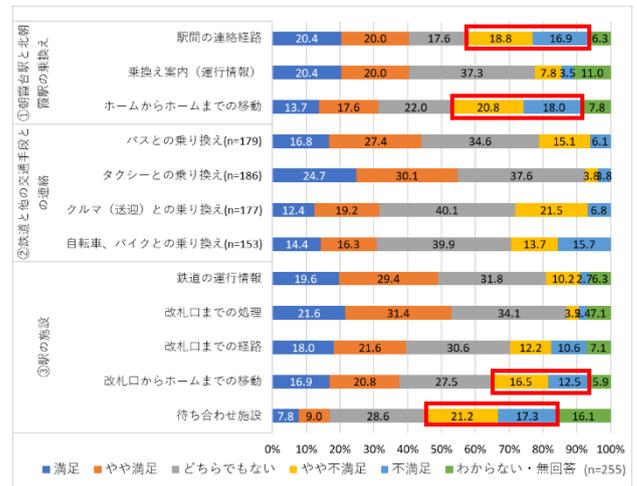
#### (1) 各駅の満足度について

- ・ 朝霞駅において、「クルマ（送迎）との乗換え」、「待ち合わせ施設」は、他に比べ不満の割合が高い。
- ・ 朝霞台駅において、北朝霞駅との乗換え、待ち合わせ施設、改札口からホームまでの移動は不満の割合が約3割を超え、他に比べ高い。
- ・ 北朝霞駅においても、朝霞台駅との乗換え、待ち合わせ施設、改札口からホームまでの移動は不満の割合が約3割を超え、他に比べ高い。

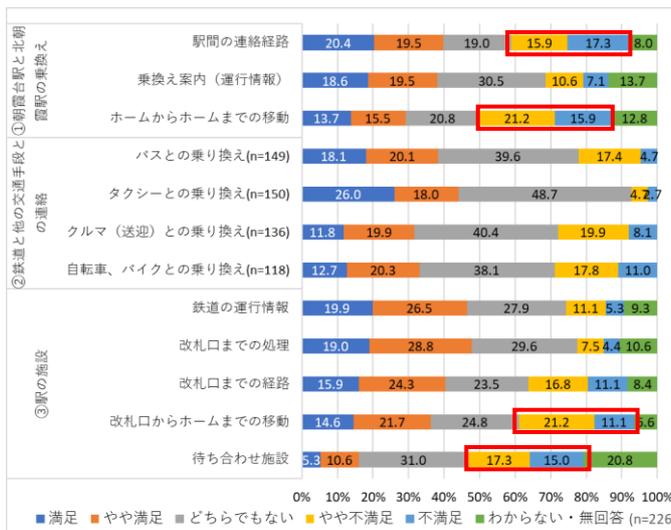
#### ■朝霞駅における満足度



#### ■朝霞台駅における満足度



#### ■北朝霞駅における満足度

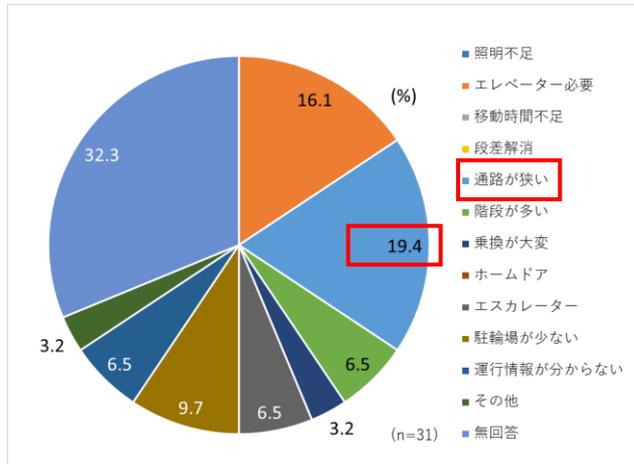


※②鉄道と他の交通手段との連絡については、「わからない・無回答」が多いため、省いて集計

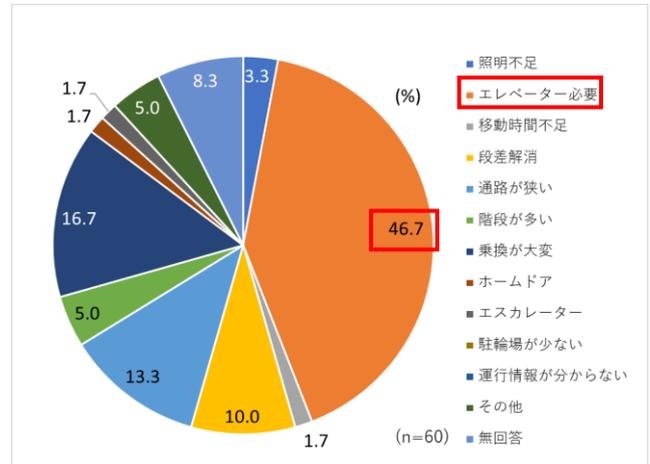
## (2) 各駅の利用者の不満理由について

- ・ 朝霞駅における不満は、「通路が狭い」が19.4%と最も多い。
- ・ 朝霞台駅における不満は、「エレベーター必要」が46.7%と最も多い。
- ・ 北朝霞駅における不満は、「通路が狭い」が38.0%と最も多い。

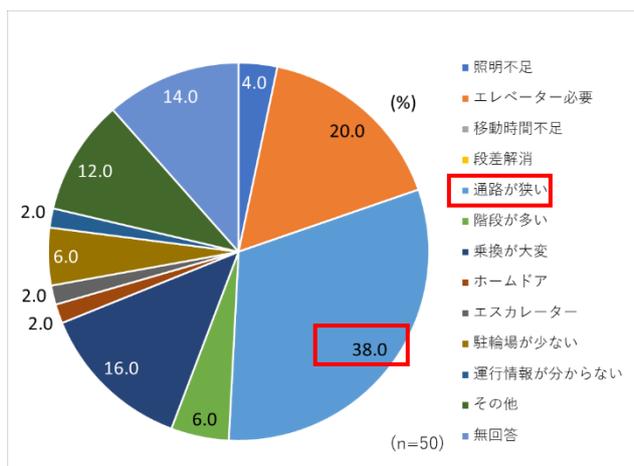
■朝霞駅における不満理由



■朝霞台駅における不満理由



■北朝霞駅における不満理由



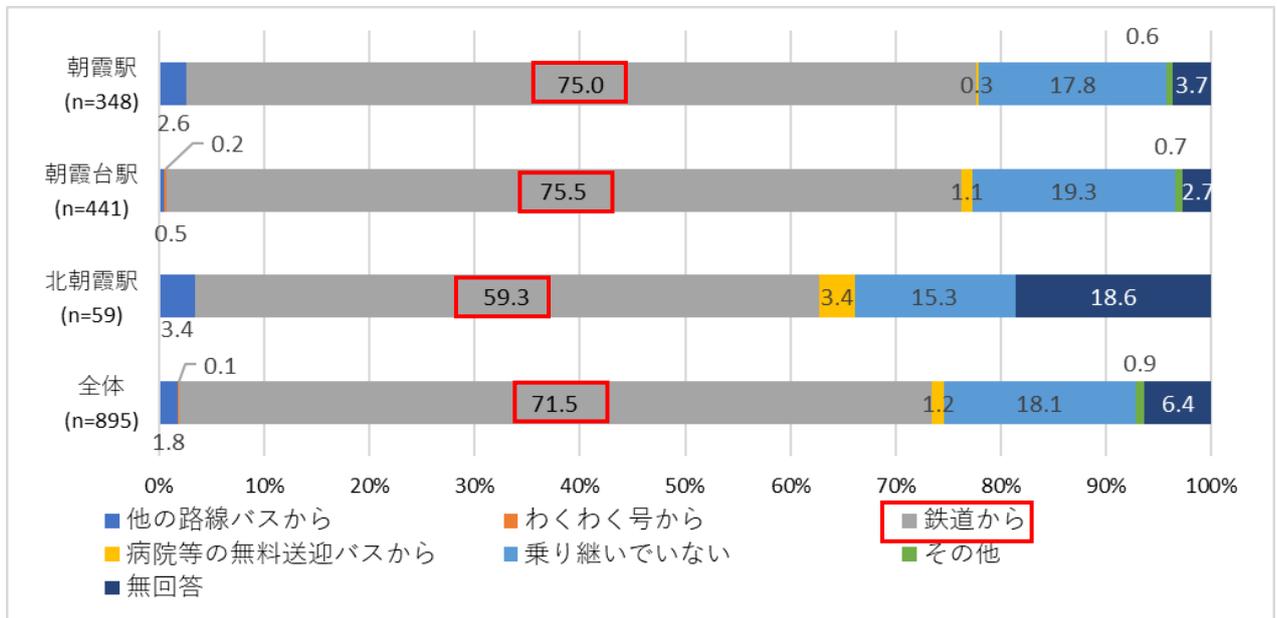
## 4 路線バス利用者に関するアンケート調査結果

- 路線バスは鉄道との乗り継ぎの利用者が約 6～7 割と高い
- 約 8 割が往復で利用している
- 自宅最寄りのバス停での定時性、速達性の満足度が低い
- バス利用促進の改善策として、「バス停で上屋やベンチの整備」が最も多い

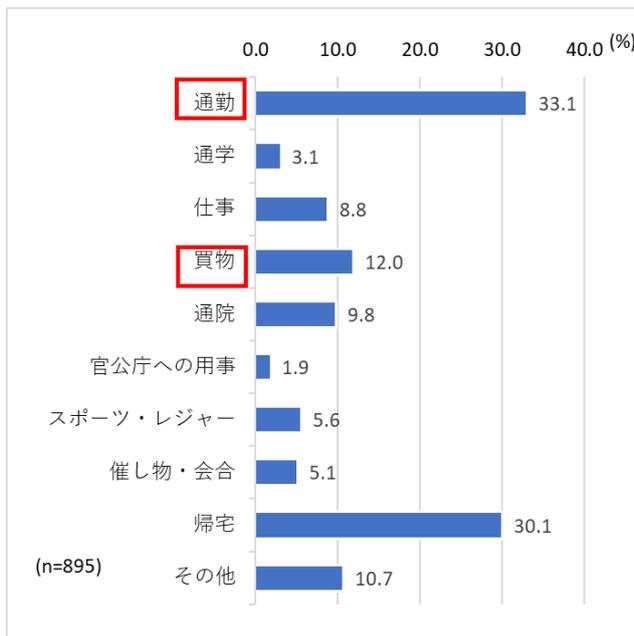
### (1) 利用状況について

- ・ 路線バスの利用者は主に、鉄道からの乗り換え利用者が約 6～7 割で最も多く、他の交通に乗り継ぎがない利用は約 2 割である。
- ・ 利用目的では、通勤目的が最も多く、次に買物目的が多くなっている。
- ・ また、約 8 割が「往復で利用」している状況である。

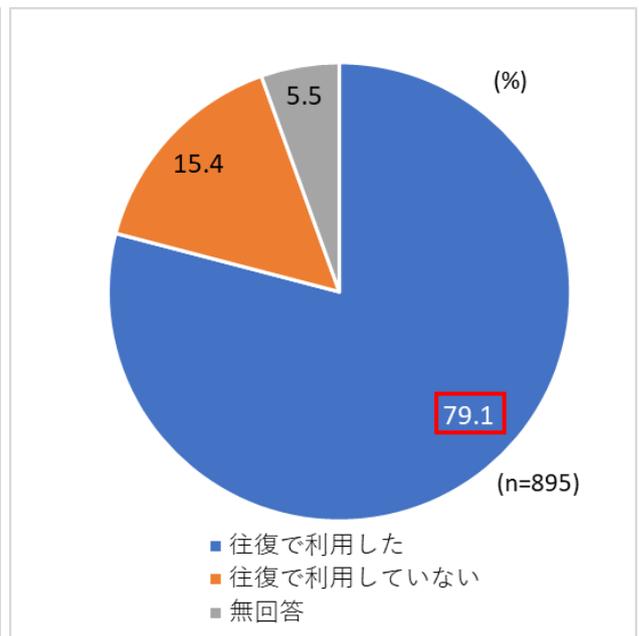
### ■ バスの乗り継ぎ状況



### ■ バスの利用目的 (複数回答あり)



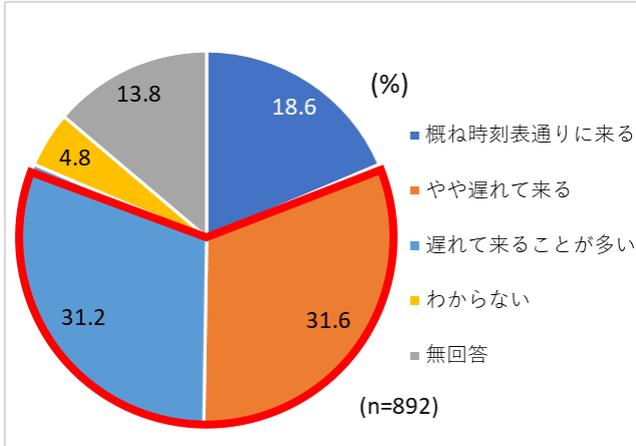
### ■ バスの往復利用状況



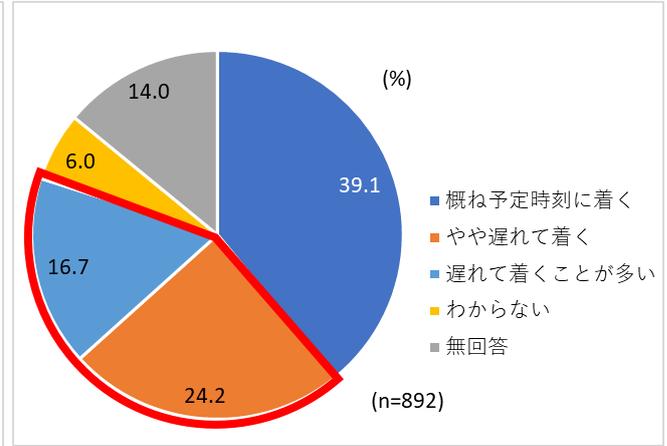
## (2) バスの定時性、速達性について

- ・ 駅から乗車するバスの定時性の満足度は高い一方で、自宅最寄りのバス停での定時性、速達性の満足度は低い。

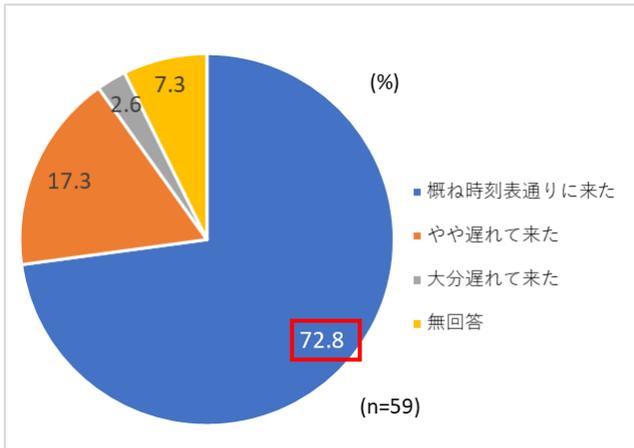
■自宅最寄りバス停での定時性



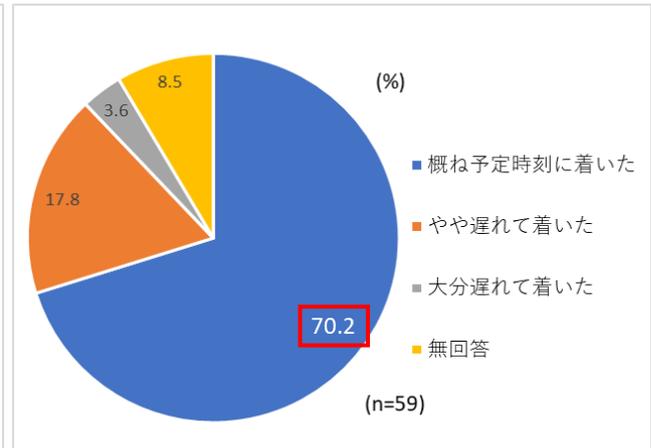
■自宅最寄りバス停から目的地までの到着時間



■駅前バス停の定時性



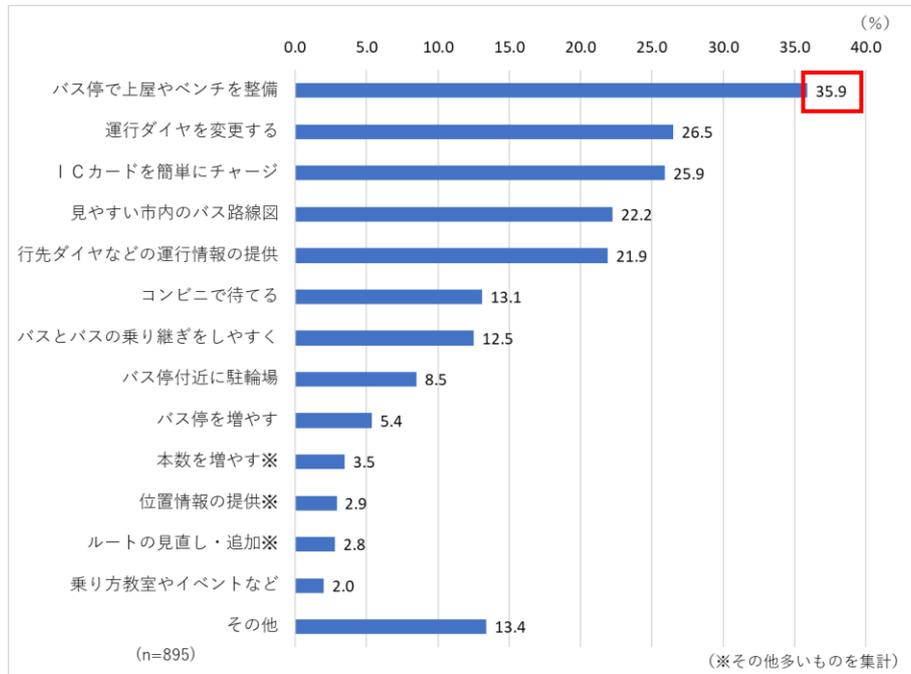
■駅前バス停から目的地までの到着時間



### (3) バス利用促進の改善策について

- ・ 「バス停で上屋やベンチを整備」が35.9%と最も高く、「運行ダイヤの変更」や「ICカードを簡単にチャージする」、「見やすい市内のバス路線図」、「行先ダイヤなどの運行情報の提供」が多くなっている。

#### ■バスを利用する又は利用回数を増やすために必要な取り組みについて



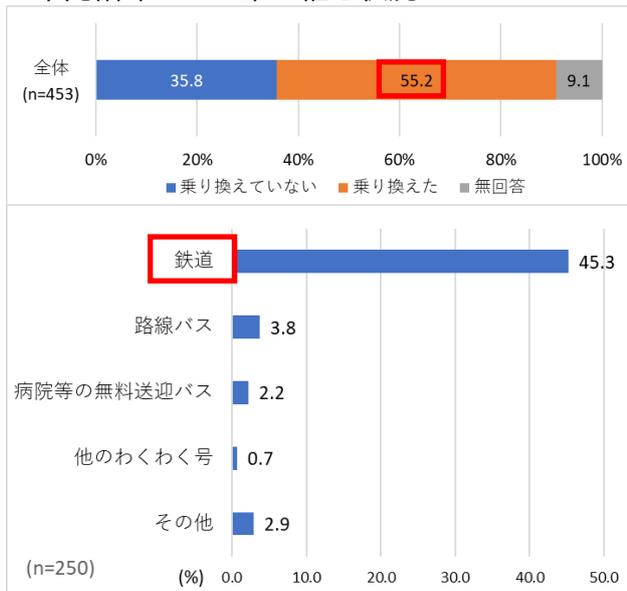
## 5 市内循環バス利用者に関するアンケート調査結果

- 15歳から64歳の利用目的は通勤が最も多い
- 高齢者における利用目的は、買物が最も多く、次いで病院が多い
- 市内循環バスの往復利用は約4割と、路線バスと比較して低い
- 市域の南部のバス停において、遅れてくると感じている割合が高い
- 市内循環バスの今後については、市民全員で費用負担をする意向が高い
- 値上げした場合の利用状況は過半数が変わらないと回答している

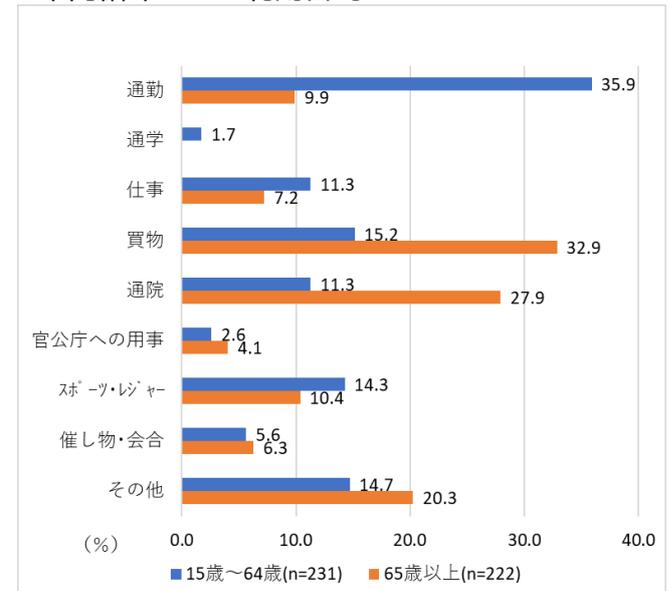
### (1) 利用状況について

- ・ 55.2%が乗り換えをしており、乗り換え後の交通手段は主に鉄道である。
- ・ 15歳から64歳の利用目的は「通勤」が35.9%と最も高く、65歳以上の利用目的は「買い物」が32.9%、「通院」が27.9%と高い。
- ・ 往復利用は35.5%であり、路線バス（約8割）に比べ低い。
- ・ 市内循環バスを利用する理由として、「バス停が自宅・目的地の近くにあるから」が63.6%と最も高く、約3割は「運賃が安いから」となっている。

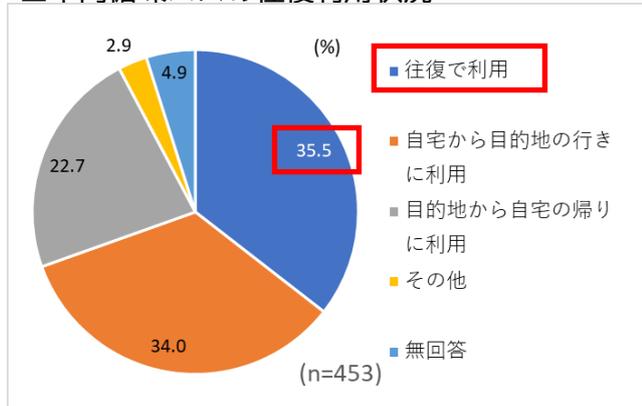
■ 市内循環バスの乗り継ぎ状況



■ 市内循環バスの利用目的



■ 市内循環バスの往復利用状況



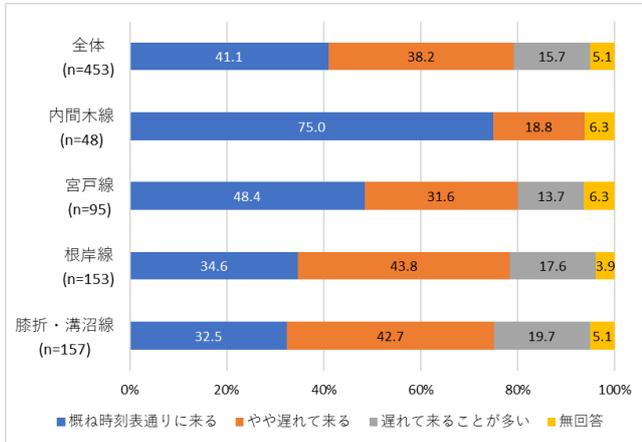
■ 市内循環バスの利用理由（複数回答あり）



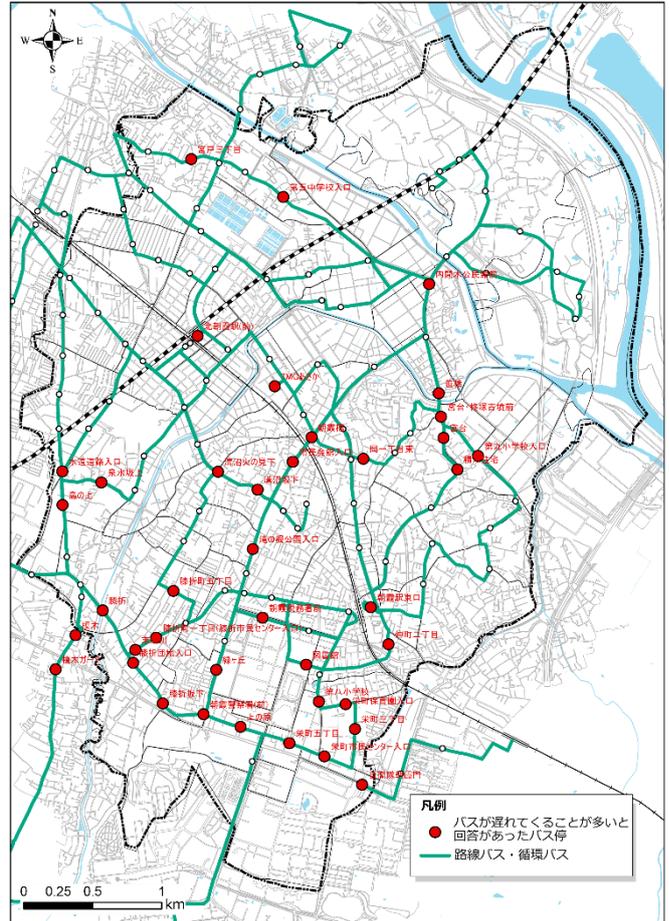
## (2) 市内循環バスの定時性、速達性について

- ・ 自宅最寄りバス停での定時性は遅れてくる割合が約5割である。
- ・ 自宅最寄りバス停から目的地までの到着時間は、「概ね予定通りに着く」が過半数以上である。
- ・ 市域の南部のバス停において、「遅れてくると感じている」割合が高い。

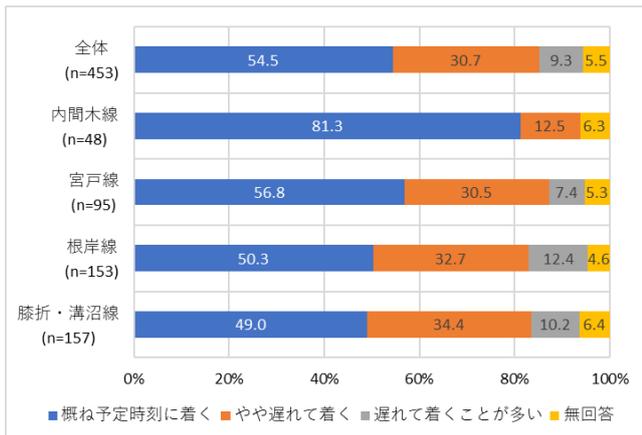
### ■自宅最寄りバス停での定時性



### ■バス停別の定時性



### ■自宅最寄りバス停から目的地までの到着時間



## (3) 市内循環バス利用促進の改善策について

- ・ 利用促進に向けた改善策では、増便を含む「運行ダイヤの変更」の割合が最も高く、次に「バス停で上屋やベンチの整備」が高い。

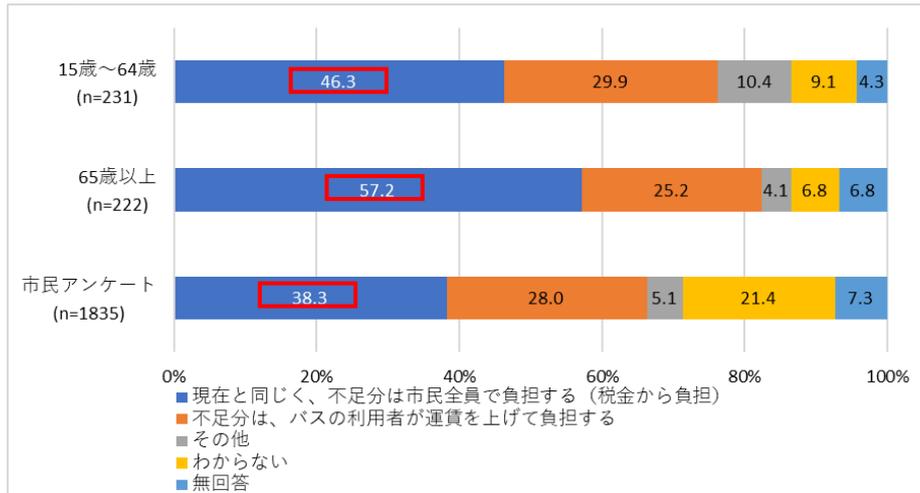
### ■バスの利用回数を増やすために必要な取り組みについて



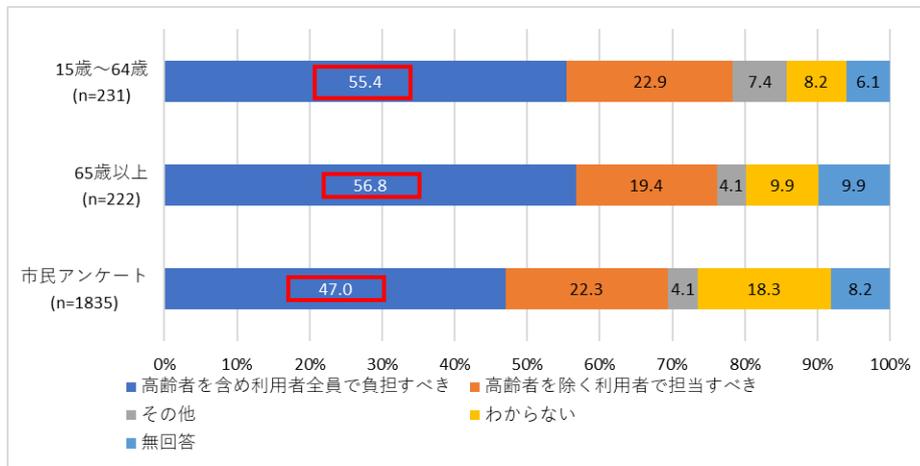
#### (4) 市内循環バスの今後について

- ・ 市内循環バスの市の費用負担について、利用者に比べ割合は低いものの、市民においても「不足分は市民全員で負担する」割合が最も高い。
- ・ 運賃を値上げする場合の利用状況については、「高齢者を含め利用者全員で負担すべき」の割合が最も高い。
- ・ 値上げした場合は、「変わらない」が半数以上を占めており、「利用しない」は65歳以上において4.1%となっている。

#### ■費用負担の考え方について



#### ■運賃を値上げする場合の考え方について



#### ■運賃を値上げした場合の利用状況について

